

東北地域保全研鑽会（2024年度第2回）

<https://info-jipm.jp/f/tohoku/>

における活動レポート



アイシン東北（岩手県）での見学（2024年第2回）

東北地域保全研鑽会ってなに？

「設備保全」の業務は、「設備をいつでもロスなく稼働させる」ことが本来の役割。

その実現には、故障をはじめとしたロスの原因を見つけて、未然に対策を行なうことが重要です。しかしながら、自社で得た知見だけでは、なかなか対策が難しい場合も。。。

「東北地域保全研鑽会」では、2016年より、人材育成や人材確保、設備診断技術などをテーマにして、ディスカッションや、工場の見学を実施しながら「オール東北」での交流の場となることを目指しております。

目頃の困りごとの解決や、他社の取組み事例を知りたい方は、この機会にぜひご参加いただき、参考となる情報を自社で活かしてみませんか？
（当会会員企業の方は参加無料ですので、お気軽にご参加ください）



研究会概要

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 設備管理・保全に関する情報交換ならびに相互研鑽 設備管理、保全、モノづくり全般について先進企業の取組み紹介 メンバー企業の工場見学 など
参加対象	<ul style="list-style-type: none"> 設備保全、設備管理全般の管理者およびご担当の方 人材教育の企画、実施のご担当の方
開催頻度	<ul style="list-style-type: none"> 3回/年を予定（2025年度）
年会費	<ul style="list-style-type: none"> 公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 会員価格：無料 一般価格（上記以外）：¥33,000-/名

東北地域保全研鑽会ってなに？

研究会活動の紹介（2024年度第2回活動レポート）

テ ー マ	2024年度第2回 東北地域保全研鑽会 ～アイシン東北株式会社における“設備管理”の事例見学～
開 催 日	2024年11月15日（金）
開 催 場 所	アイシン東北株式会社（自動車用部品製造会社）
プログラム	<ul style="list-style-type: none">● アイシン東北株式会社 概要・施設紹介● 三本柱活動の取り組み紹介● 製造現場の自主保全活動（自主保全活動ボード）紹介● 保全の故障低減活動（活動の仕組みや運用・状態監視）紹介
参 加 者	東北地域保全研鑽会 会員：29名（10社）
開 催 報 告	<ul style="list-style-type: none">● 2024年度第2回の東北地域研鑽会は、アイシン東北さんにご協力いただき、現場視察とともに、現場の活動をプレゼンテーションしていた。● 今回のテーマは、前回のトヨタ自動車東日本さんに引き続き、“設備管理”の考え方・取り組み。ただし、小さな自動車部品を含めて多彩な製品を製造するアイシン東北さんでは、“設備管理”の考え方・取り組みは、トヨタ自動車東日本さんと共通する部分はある一方で特徴的な点がある。● トヨタ生産方式（TPS）を基本として、製造ラインのコンパクト化を図りながら設備の見える化に取り組んでいる。● 1992年の会社設立時はエンジン部品生産が主体であったが、車体部品、電子部品、駆動部品と生産品目を拡大させ、近年では2022年に電動化部品も加わった。その過程で、第2工場、第3工場と施設が拡張され、管理すべき設備も増加していく。● この環境下でも品質を維持・向上させていった原動力の一つに「自主保全活動」の体系化にある。「古い設備でもしっかり保証する取り組みをすれば50年間使用できる」というくらい自主保全活動を現場全体で取り組まれており、担当部署でできる活動はワンポイントレッスンシートなどで共有や、自主保全改善計画書をもとにして、保全基準の見直しや標準化を図っている。そして、何より大切なことは、この活動を風化させないよう、1）自主保全活動の時間を就業中に確保することをルール化（原則15分間/週）や、2）改善事例への表彰制度、3）座学ならびにベテラン社員とのコンビでの実習といった取り組みを継続していることだ。● そして、保全の故障低減活動の流れも制度化している。アイシン東北さんでは、1時間以上の稼働停止が発生すると長時間故障として取り扱われ、その状況は役員含め社内全体で共有化される。迅速な修復を可能にするため、過去の実績をまとめた保全記録をシステムに蓄積しており、常に更新されている。さらに、長時間故障への再発防止策のほか、計画的に重点ライン選定し、故障低減活動も実施し予知保全に努めている。また、その活動をアイシン東北さんに留まらず、アイシングループ全体で共有することでその精度をさらに高いものにしている。● 上記以外にも、予備品管理のシステム化やルールを定めて運用するなど、研鑽会参加企業の関心の高い活動をご紹介いただき、もっと深く知りたいといったご意見が多かった。● 次回の研鑽会では、今年度の活動の総括をしながらディスカッション主体の会合にする予定である（記：JIPM奥宮）



東北地域保全研鑽会にご興味ある方は、お気軽にお問合せください
TEL：0120-451-466（または03-6865-6081） E-mail：FUKYU@jipm.or.jp